

「平和をつくり出す宗教者ネット」集会アピール ーイスラエルは大殺戮を招くガザ攻撃を止めてください！ー

「武力で平和はつukれない」。このことを信念として、わたしたち「平和をつくり出す宗教者ネット」は今間もなく、パレスチナ・ガザ地区で起ころうとすることに深い憂慮を覚え、平和の祈りと反戦にむけた非暴力による行動を日本と世界の宗教者と市民に呼びかけます。

去る10月7日、ガザ地区を実効支配するハマスによってイスラエル側に電撃的な武力攻撃がなされました。それに対してイスラエルは即座に空爆をもって報復をしました。さらに現地時間の17日夜にはガザ市内の病院で約500人の命を奪う爆発が起きました。その結果、現在までにイスラエル側はおよそ1400人の犠牲者と、ハマスに連れ去られた199人の人質が、そしてガザ側は今や、3000人をはるかに超える犠牲者が生まれています。わたしたちは、ハマスの武力攻撃と共にイスラエルによる空爆による報復攻撃にも強く抗議します。

イスラエル政府のネタニヤフ首相は、ハマスを「血に飢えた怪物」と呼びながら、「ガザの地獄の門を開く・・・ガザを廃墟にする」とまで記者会見で発言し、ガザへの地上軍による攻撃準備を整えることにより、自ら大殺戮の怪物になろうとしています。もしこれが実行されれば、コンクリートの壁と鉄のフェンスに取り囲まれ、「空の見える監獄」とまで言われるガザの逃げ場なく密集して暮らす220万の人々に、計り知れない大殺戮の事態が予想されます。南へと避難せよとイスラエル政府はガザの人々に呼びかけているとは言いますが、ガザ南端のエジプトに入るラファ検問所の扉は未だに開かれていません。さらに、イスラエルによるガザ侵攻は、中東諸国への戦争拡大の危機を迎えることにもなりかねません。

パレスチナ人は、先祖代々その土地に暮らす先住の人々です。第二次大戦時のホロコーストの苦難をくぐり、1948年に国連決議に基づきイスラエルをパレスチナの地に建国したユダヤ人は、追放と迫害の苦しみを、世界のどの民族よりも知っていたはずです。

数次にわたる中東戦争とインティファダの暁に、1993年9月に成立したオスロ合意が謳うパレスチナとイスラエルの二国家共存の道以外に、パレスチナとイスラエルの間に平和を実現する希望の道はありません。それを否定し、植民地主義的にイスラエルがパレスチナ人を排除しながらパレスチナ人居住地にユダヤ人入植政策を進めていくなれば、これからも戦争と殺戮、そして果てしない敵意と憎しみ、そして悲しみが絶望的に深まるばかりです。

イスラエルがなによりもよりどころとする聖書の十戒にはこう記されています。

「殺してはならない。」(出エジプト記20章13節)イスラエル政府は、この十戒の精神に立ち帰ってください。

ガザの人々のいのちをこれ以上犠牲にせず、199人のイスラエル人の人質のいのちを守る道は、イスラエルがガザへの地上軍侵攻と空爆を中止し、国連を通して外交的平和交渉のテーブルに着く以外にありません。

わたしたち宗教者は、そのためにこの日本と世界のすべての宗教者と市民と共にひたすら平和の祈りと反戦にむけた非暴力による行動を続けていきます。

2023年10月19日

「平和をつくり出す宗教者ネット」月例集会参加者一同